



国立大学法人

群馬大学

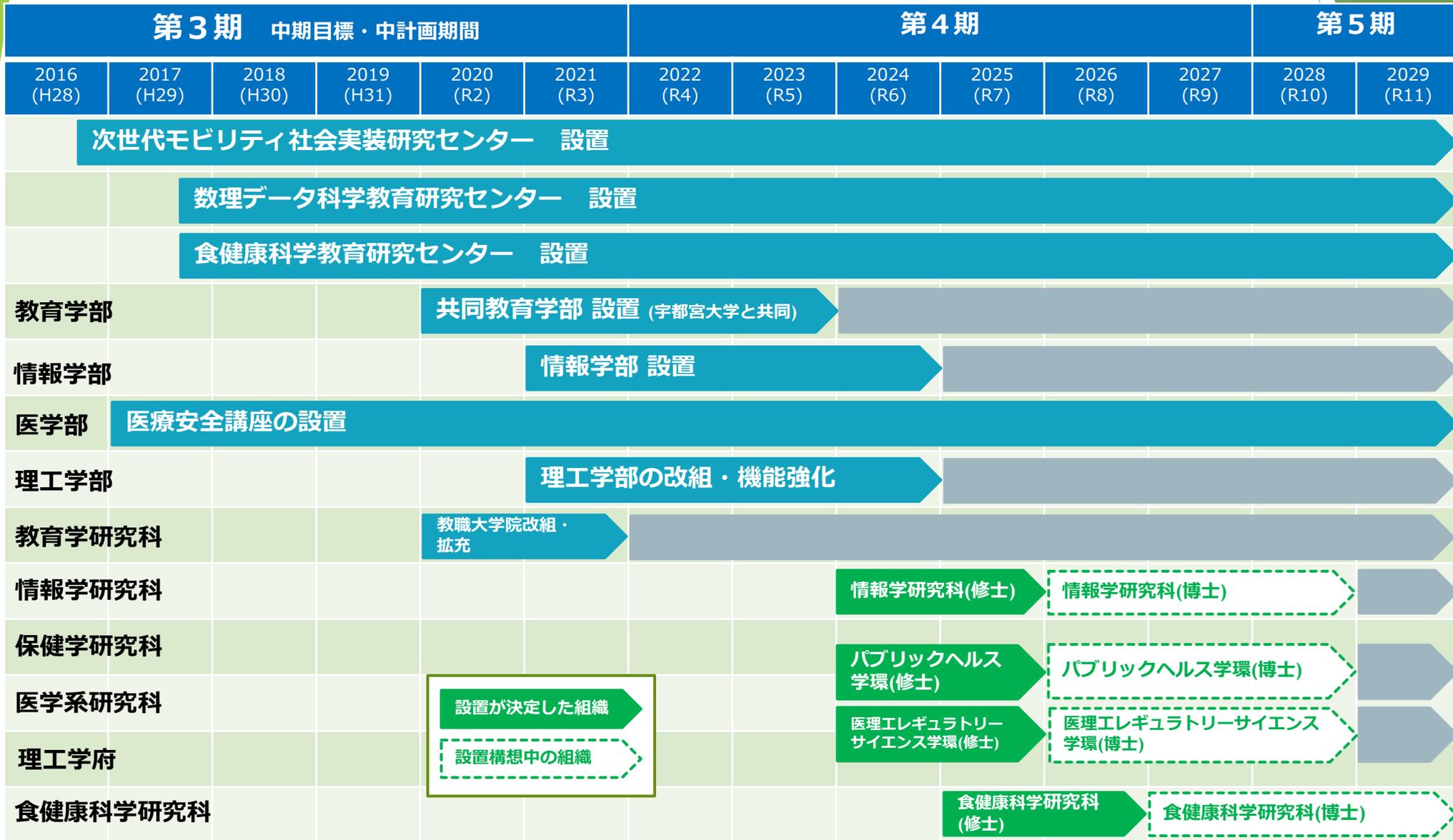
GUNMA UNIVERSITY

会見資料
(2024.9.13)

本日の会見内容

1. **食健康科学研究科（修士課程）の設置について**
2. **数理・データサイエンス・A I 教育プログラム
認定制度 応用基礎レベル+ の選定について**

群馬大学教育研究組織改革年表



食健康科学研究科の概要

- 社会の変化及び科学の進歩が著しい現在において、学問分野間の柔軟な連携に基づく発想力・俯瞰力が求められていることから、従来の学問分野の枠を越えた新しいサイエンスに資する人材を育成することで予測不能な社会を牽引していくことが求められている。
- 平均寿命が延びる中、健康寿命の延長を実現させる上で、食から健康を捉えることが重要であり、政府の「健康・医療戦略」において「健康に良い食」を科学的に解明しヘルスケアサービスに連結したビッグデータを整備するとともに、高度な生産流通システムの実現が求められている。
- 国際社会が一丸となって取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）に「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」が目標として設定されている。また、政府の「グローバルヘルス戦略」において、人の健康、動物の健康、地球環境の健康を一体化して考えることが必要であると提唱されている。食は人に健康をもたらすものであるだけでなく、地球規模の環境負荷及びエネルギー等の課題に関係している。
- 地域では健康面及び生産・流通過程の環境負荷において高付加価値の食品開発による食品産業の振興が求められている。

＜食健康科学研究科の特色＞

- ✓ 食と健康の関係性を科学的に解明することが可能となる。
- ✓ 医科学、保健学、食品工学、食品生産工学、環境科学を基盤として、食健康に関する高度な専門的科学研究リテラシーを持つ人材を育成する。
- ✓ 地域食品産業の課題解決と持続可能な食による地域活性化と未来社会創造に貢献する専門家を育成する。
- ✓ 内分泌代謝学に関する国内唯一の生体調節研究所及び生活習慣病解析センターとの連携により、生活習慣病に関する基礎医学研究を進めることができる。



食健康科学研究科入学試験

●入学試験概要

募集人員：40名

出願期間：11/1(金)～11/14(木)

試験日：12/14(土)

試験会場：群馬大学荒牧キャンパス

試験内容：面接または口頭試問

※ 募集要項については、ホームページでご確認ください（9/13公開予定）。

●育成する人材像

食健康科学研究科は、食を通じて健康を科学することや食に関わる健康増進に関する研究、食の生産・流通・消費に関わる環境の健全性や社会の健全性の維持・強化に取り組みます。学部教育によって培われた個々が有する保健学、食品科学、食品生産工学、環境科学に関する専門性を基盤に、食品工学から健康科学にまたがる横断的な高度専門知識を身に付けることで、人類の健康向上、脱炭素社会の実現等の世界規模の課題解決や、高付加価値食品の開発等による地域の産業振興に資する人材を養成します。

●修了後の主な進路

大学・研究機関、公官庁、自治体、製造業、食品産業、医療機関、製薬業、医療機器メーカー、農協、農業法人、農業関連企業など

●学位

修士（食健康科学） Master of Food and Population Health Sciences

食健康科学研究科カリキュラムの特徴

●開設授業科目

必修科目（選択必修を含む）

大学院共通科目 （必修）

- （必修）
- Research Skills-Presentation and Writing
効果的なプレゼンスキルとライティングスキル
- レギュラトリーサイエンス概論
- （選択必修）
- Pythonによる数理解析
- 画像処理と実践応用演習

必修

- 食健康科学概論
- 食健康科学特別実験
- 食健康科学特別演習

選択必修

- 実践食品イノベーション特論
- 食品科学特論
- 食品生産工学特論
- 食健康医科学特論
- バイオデータ解析・統計特論
- 食健康科学ティーチング実習

選択科目

(A) 食品工学系

- バイオプラスチックデザイン工学特論
- 食品化学工学特論
- センサ・電子計測特論
- 食品・生物工学特論
- 環境分析科学特論
- バイオプラスチック特論

(B) 健康科学系

- 栄養生理学特論
- アグリフーズ・バイオ特論
- 健康栄養特論
- ヘルスサイエンス特論
- 予防医学特論

インターンシップ

- インターンシップⅠ
- インターンシップⅡ
- 国際インターンシップⅠ
- 国際インターンシップⅡ

●カリキュラムの特徴

- 学生が「食健康科学とは何か」を学ぶ科目を受講することにより、分野横断的な学問分野である食健康科学を学修する基盤を身に付けることができる。
- 専攻内容を食品工学領域と健康科学領域の2領域で構成し、学生は各領域から1名ずつ選出された主指導教員及び副指導教員の指導を受ける。また、特別実験・特別演習の中間審査においても各領域の指導教員から審査を受ける。
- 2領域の主指導教員及び副指導教員による研究指導のほか、選択必修科目ではそれぞれに各領域の要素を含んでいること、また、選択科目では各領域から1科目以上選択することから、分野横断的な知識を身に付けることができる。

上記により、学生が学士課程で学んだ専門分野を主たる領域として、その専門性を更に高めることができると同時に、食健康に関する他の領域も副次的な専門性として身に付けることができる。

食健康科学を基軸としたヘルスプロモーションの実現

10年後の大学ビジョン

群馬大学が有する教育・研究資源を結集し「食健康科学」を確立する。これにより、地域および地球規模での健康で幸福な社会の実現をけん引する大学としての地位を確立する。

群馬大学の強み

- ・内分泌・代謝学の共同利用・共同研究拠点（ヒューマンヘルス）
- ・ムーンショット事業（生分解性プラスチック）（エンバイロメンタルヘルス）
- ・国内唯一の大規模就労女性コホート研究（ソーシャルヘルス）
- ・次世代通信網を活用した地域課題解決（ソーシャルヘルス）

研究力の向上戦略

- 3つのヘルスを有機的に融合した学際的研究を推進し、成果を社会実装するための仕組みを補強する。
- ・食健康科学部門の設置
 - ・食健康科学協議会の設置 他

連携による強化

- ・農学分野・環境影響評価の強化
- ・リソースの共有（大学院単位互換・OA加速化事業 他）
- ・学生交流・高度専門人材育成（多能工URA事業 他）
- ・ネットワーク拡大・アジアへの展開
- ・共同研究拠点の設置



人類と環境の健康(健全)を追求する 持続可能な社会の実現

研究力強化の方策

食健康科学部門を核として、全学で制度・体制を改革・整備

研究者の育成・確保

- ・Top研究者制度創設と雇用
- ・研究教員/教育教員制度の創設
- ・留学生を含む若手研究者支援の拡充
- ・女性研究者支援の拡充

研究支援体制の強化

- ・URAの拡充
各部署への配置・連携、本部機能の強化（IR・マネジement・広報）
- ・コアファシリティセンター設置
共用機器の全学的管理・運営
- ・技術院設置
技術職員の一元化・育成・高度化
・教育・研究・事務のDX化加速

社会実装の推進

- ・スタートアップ支援（UIIEの活用等）
- ・知財マネジメントの強化

食健康科学協議会の設置
異分野融合の「食健康科学教育研究センター」の機能を拡充し、産官民金との連携・協働を拡大・強化

主なアウトプット・アウトカム指標

- ・研究者層の厚みとパフォーマンスの向上による研究成果（シーズ）の増大
→論文数・特許出願数の増加
- ・研究成果の社会導出（地域・社会課題解決）
→スタートアップ創出・共同研究・自治体関連事業の増加

【群馬大学の提案内容の概要】

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (応用基礎レベル) プラスの選定について

取組概要

独自の学習支援

- 学習ログから成績評価をすることでの学生の**学習意欲を可視化**
- デジタル教材・学習機会の**学外提供**

独自の人材育成

- 統計数理研究所が中核となるコンソーシアムによる**統計エキスパート人材育成**
- **高大リカレント**接続による持続的なDX人材育成

